



えがお 愛顔つなぐえひめ国体 みきゃん通信

問 役場 国体推進課 内線4203・4204

No.18

2017(平成29)年に開催される「^{えがお}愛顔つなぐえひめ国体」。今年度の「みきゃん通信」では、鬼北町で行われる民泊に協力いただく24の民泊協力会の会長から民泊に向けた意気込みなどを聞いていきます(※紹介順は届け出順です)

日向谷・上鍵山民泊協力会(日向谷・上鍵山/日吉地区)



会長 石本 徹

「ぜひ民泊をやってみたい」という思いを抱いた日向谷区の人たちでしたが、さまざまな面において単独での実施が難しいと判断しました。しかし、「他に民泊を実施できる方法はないだろうか」と思案した結果、昔からつながりのあった「上鍵山区との共同実施」という答えにたどりつき、すぐさま上鍵山区に相談。すると、上鍵山区の人たちは「ぜひやりたい」と快諾してくれたそうです。日向谷区と上鍵山区の人たちが抱く「国体に協力したい」その熱い思いから、日向谷・上鍵山民泊協力会は誕生しました。

「共同できて本当によかった」と、話す石本会長ですが、「拠点となる上鍵山区と、選手の宿泊先となる日向谷区が離れているため、選手の負担になるのではないか」という不安な面もあるそう。しかし、石本会長は「負担と思わせんところが腕の見せ所やね」と、意気込んでいました。

石本会長は「日向谷区と上鍵山区の良さを引き出し、私たちができる精一杯のおもてなしをしたい」と、笑顔で話していました。

上川民泊協力会(上川/泉地区)



会長 井上 建司

「以前に比べ、同じ区内でも年代が異なると交流する機会がほとんどない」と話す井上会長。「世代を超えて1つのことをやり遂げたい」その思いから井上会長は、民泊協力会の立ち上げをきっかけに、希薄になりつつある上川区の団結力の向上を図りたいと考えています。

6月に開催されたりハーサル大会を振り返り、井上会長は「観戦中、全員が熱中していた。国体は選手にとって、出場すること自体が一生に一度のいい思い出。その思い出がさらにいいものとなるよう、心のこもったおもてなしをしたいと改めて感じた」と、笑顔で話していました。

上川民泊協力会は、選手がのびのびと試合に臨めるよう、明るく楽しい雰囲気作りを目指しています。井上会長は、「選手に鬼北町に来てよかった、上川に来てよかった、そうしてもらえるように、やれることを精一杯やりたい。そして私たち自身も「民泊やってよかったね」とみんなが喜べるよう、協力して頑張りたい」と、平静に意気込みを話していました。